

第8回 ICT を活用した新道路交通調査体系検討会 議事概要

1. 日時

令和7年3月6日（木）16:00～18:00

2. 出席者

＜委員長＞ 羽藤英二

＜委員＞ 井料隆雅、大口敬、小嶋文、塩見康博、兵藤哲朗、福田大輔、
柳沼秀樹（50音順、敬称略）

3. 議題

- （1）新たな道路交通調査体系における常時観測データの活用に向けて
- （2）令和7年度全国道路・街路交通情勢調査の実施方針

4. 議事概要

- （1）新たな道路交通調査体系における常時観測データの活用に向けて

○OD 推定手法としては説明性の高い古典的な手法であるが、更に精度を向上させるならば、AI モデルを組み合わせた手法の検討が必要である。

○引き続き、インプットデータの検証やETC2.0プローブ情報とOD調査結果のデータフュージョンの手法の検討を進めつつも、そもそもOD推定において、異なる種類のデータを整合的に解釈できるかという議論を行っていくべき。

- （2）令和7年度全国道路・街路交通情勢調査の実施方針

【令和7年度一般交通量調査の概要】

○道路管理者によって、交通量調査のうち機械観測が占める割合に差が生じているため、現場へ活用方法等を共有すべき。

○CCTVトラカンの画像解析精度については、設置条件によって精度が異なる場合があることを踏まえ、現場で活用しやすい形で知見を整理し活用すること。

○道路状況調査については、将来的には他の道路関連のデータと相互に参照できる形となるのが望ましい。

【次期 OD 調査に向けた検討状況について】

- OR70D 調査は、従来通りアンケート調査結果により OD 表を作成すること、アンケート調査の実施手法は R30D 調査から継続して Web 並行型とすること等の実施方針につき委員より了承いただいた。
- 将来的に ETC2.0 プローブ情報を活用する手法を検討するとあるが、アンケート調査でのみ取得可能な調査項目があるため、アンケート調査は継続すべき。
- 次々回の調査に向けて、Web 調査を推進する検討を進めてほしい。
- レンタカー・カーシェアに関する調査は、現状としては OD 調査の枠組みの外側にあるが、政策的な価値があり、検討を進めてほしい。

（３）その他

- 近年の道路施策は多様化しているため、新たな評価指標の検討が必要。
- 衛星画像データを用いるなど先進的な手法を活用し、新たな道路交通調査体系の検討を進めてほしい。

以上